

第7回神戸マラソン ランナーエピソード つなぐ～神戸マラソンを走る私から被災地へ～

和歌山県 元田 安伊子 さん

母は東灘育ち。大丸神戸店で勤めていました。

父と出会い和歌山へ嫁ぎました。

震災当日、会社に電話が掛かってきたその言葉は半狂乱になって分からず、近くのテレビで騒いでいるのを見て言葉が出ませんでした。

情報も無いまま、すぐ行く！とハイエースをレンタルし、手当たり次第荷物を積み、9時に和歌山を出発。神戸の祖父母の家に着いたのは25時。

タンスの下敷きになっていましたが、隣人が助けてくれていました。

朝になっても空は灰色。言葉にならないくらいの光景に、サイレンが鳴り響く！

車に乗れる人を何人か乗せて守口市まで避難しようと思いましたが、「やる必要がある」と90歳の祖父母を連れ避難。

その祖父母も他界し、もう家も無い。神戸には帰るところが無くなった。

でも神戸マラソンで走ることで帰るところが出来る！

神戸マラソンの当選に、C型肝炎を発症していた母が一番喜んでいました。

元気な神戸を完走した証を持って帰ります。

神戸の皆さん、よろしくお願いします。

熊本県 久保田 英之 さん

昨年、被災地枠で神戸マラソンに出場することができました。

嬉しいことに、ランナーエピソードを載せていただいたうえに、朝日新聞に写真付きで神戸マラソンにかける思いを紹介していただくことができました。

初めての神戸マラソンに「深い絆」を感じ、私にとって特別なマラソンになりました。

フィニッシュ後、ある親子と偶然会話をすることができ、当時5歳の男の子に完走メダルをかけてあげました。

メダルをかけたその子の嬉しそうな顔は、今でもよく覚えています。

絆を信じ、神戸の街で、その親子にまた会えることを願っています。

大阪府 P.N.つつー さん

昨年の神戸マラソンは抽選に洩れました。

大会の様子をニュースで見て、ランナーが掲げた黄色い手袋による「復興のひまわり」に参加して、一緒に花を咲かせたかったな...と思いました。

私は阪神大震災も東日本大震災も、大きな被害を受けるほどではない場所ですが、それでも恐怖を感じる大きな揺れを体感しました。

被害を受けた場所を見に行くことは軽率だと思っていたため、これまでは現地の被害や復興を直接感じることはありませんでしたが、今年はマラソンをキッカケにして、2月の熊本城マラソン、10月の東北みやぎ復興マラソンを走るチャンスを掴み、実際に自分の目で震災というものを確かめる機会がありました。

そこで感じたのは「復興」に大切なものは笑顔だということ。

訪れた被災地に住む方々の顔は、決して暗いものではありませんでした。

元気を分けに行こうと思っていた私が恐縮するくらいに「来てくれてありがとう」と満面の笑顔で声援を送ってくれました。

その笑顔は私にも伝染し、私の笑顔は他の誰かに伝わり、笑顔をパスし合うことで、皆が明るく元気になっていくことを体感しました。

熊本→東北に続いて、最後は神戸に笑顔のパスをつなぎたいと思います。
笑顔で 42.195km を走ります！スタートからフィニッシュまで楽しめます！
今年も「復興のひまわり」を一緒に掲げられたらいいな、と思っています。

大阪府 P.N.かっぱカズ さん

阪神淡路大震災の時、私は八尾市の会社で工作中。
地震は不気味な振動でした。
その後報道を見て、凄い地震だった事を知りました。
今でもあの日の報道映像は、目に焼き付いています。
震災から 22 年。
神戸の復興を走って見る事ができるなんて、なかなか出来ない体験です。
復興の景色を目に焼き付けたいと思います。

大阪府 小笠原 孝治 さん

去年の 4 月、楽しい学生時代を過ごした熊本の南阿蘇が被災しました。
僕にとっては大好きな場所が被災地になったのに、何も出来ない自分の無力さを感じました。
僕は去年の神戸マラソンに運良く参加できました。スタートセレモニーの『ひまわりの手袋』が、阪神、東北に続き、熊本と大分にも向かって咲き、「ありがとう」と心から感謝しながら走りました。
これからもあって欲しくなくても、きっと地震や自然災害が起きて悲しい思いをする人は現れると思います。
その時に、神戸から被災地にエールを元気と笑顔を送るマラソンがあることを、本当に嬉しく思います。
その後、今年の 2 月に熊本城マラソンも走ることができました。
加藤清正の鎧でフルマラソンを走り、関西の仮装ランナーとして母校がある熊本に最大のパフォーマンスをしてきました。
これが、僕が熊本にできる最大の事だったんですよね。
今年も沿道を笑顔にしながら、5 回目のチャレンジの神戸を走らせていただきます。
みんなで、神戸から元気と笑顔を送り続けましょうね。

熊本県 P.N.五郎左衛門 さん

初めての神戸マラソンです。
抽選倍率の高い、大阪と神戸と福岡を、外れるのを覚悟で応募しました。
蓋を開けてみると、3 つとも抽選に当たりました。
悩んだ末、熊本から参戦するので、同じ被災地の神戸を選びました。
まだまだ熊本は復興が進んでいませんが、阪神・淡路大震災から復興した姿を、この目に焼き付けながら走りたいと思います。
楽しみです。

千葉県 P.N.機関銃小僧 さん

私は神戸には住んだことはありませんが、両親が関西出身だったこともあり、神戸は時々訪れる綺麗なところという認識でしたし、結婚前に家内と一緒に訪れた思い出もあってお気に入りの街でもありました。
それが、あの 22 年前の阪神・淡路大震災のときに見た、テレビの映像の中で多くのものが壊され、多くの命が失われたことの悲しいイメージを抱いたことにより、暫く足が遠のいていました。

また自分自身も、6年前の東日本大震災で、今まで当たり前とっていた日常生活がいとも簡単に破壊されるということを経験もしました。
そして、気持ちが切り替わったきっかけが「神戸マラソン」への参加だったのです。以前の面影にいつまでも浸るのではなく、困難を乗り越えて力強く再建した神戸の街を見ながら走ることができたのは、他では無い感動でした。
フルマラソンは何回走っても、決して慣れて楽になることはないのですが、神戸マラソンは自分の気持ちのモチベーションが最も上がる大会です。
もちろん、沿道の声援や美しい海沿いの道路なども自分を後押ししてくれるのですが、自分として最も気持ちが盛り上がるのは、スタートセレモニーでの「しあわせ運べるように」の合唱です。
フルマラソンという過酷な試練の直前ですが、目をつぶってこの曲を聴いていると自然と涙がこみ上げてくるとともに、心が洗われるような不思議な気持ちになるのです。
幸いにも、今年も神戸マラソンを走らせていただけることになりましたので、開会式でこの歌をじっくり聴いたうえで自分の記録に挑戦したいと思います。

熊本県 岡田 浩一 さん

私は熊本県益城町に住んでいる者で、この度の熊本地震で自宅は大きな被害を受け、解体となりました。
神戸というと阪神淡路大震災のイメージがありますが、当時私は3歳ということもあり、震災の記憶は残念ながらございません。
しかし、この度熊本地震の被災者という立場で改めて阪神淡路大震災の映像や写真を見ると、復興までにどれほどの努力があったのだろうかと思いました。
私の自宅はおかげさまで地震から1年の4月に完成し、現在も益城町から仕事へ通い、益城町でマラソンの練習をしております。
練習をしていると、復興という言葉は簡単に出来ますが、すごい努力があったことだろうなと思いました。
この度神戸を走るにあたり、少しでも神戸の復興への道のりを知り、何かを掴めればと思います。
しっかり神戸の街並みを見て、私も元気に復興への道のりを歩んでいきたいと思います。

鹿児島県 川田 充貴 さん

自分は網膜色素変性の視覚障害で、現在、弱視です。
将来、失明するけど、頑張って前向いて走っています。
22年前、阪神・淡路大震災で、たくさん仲間を失い、目が見えているうちに神戸マラソンを走りたく、応募して当選しました。
今回の伴走者は、昔の仲間が二人集まりました。
神戸マラソンを完走して、元気を伝えたい。
頑張ろう神戸、よろしく願いいたします。

北海道 P.N.札幌ランナー さん

札幌に自宅を新築し、移り住んだ翌朝に阪神淡路大震災が発生しました。
以降、マラソン大会への参加のみならず、阪神、特に神戸を訪れるたびに力強い復興の様子を目の当たりにしています。
震災や水害などの自然災害を意識しなければならない国土に暮らしている、ということを実感するとともに、たぶん先人もそうであったように困難に立ち向かう忍耐力、精神力の強い国民性であることを感じながら42.195kmを走らせていただきます。

兵庫県 伊東 俊浩 さん

私の勤務地である神戸市立須佐野中学校では、ランナーが校区内を走ることもあって毎年横断幕を作成し、ボランティアを生徒から募り、沿道応援を行っている。

もともとマラソンには（記録はさておき）参加してきたが、せっかく生徒たちが一生懸命応援するのであれば、知ってるランナーが走ることで少しでも応援の励みになるのではと、一昨年は教頭として、昨年は校長として出場した。

幸い今年度も抽選に当たることができ、生徒たちの待つ中央市場前を目指す。

そもそも沿道応援は、校区内にコースを持つ学校は行っていることが多いが、本校は特に防災教育を教育の中心に置き、取り組んでおり、第1回から参加している。

神戸マラソン開催の趣旨である「震災からの復興と全国の支援者に対する感謝を伝える」という理念のもと、中学生のボランティア（中学校独自のもので大会ボランティアに中学生は参加不可）による沿道応援は意味が深い。

地域防災を支える将来の担い手である中学生の応援にも、光を当ててもらえるとありがたい。

中央市場前は30kmを過ぎたあたりで本当にきついところではあるが、さわやかに走り抜け、フィニッシュを目指したい。（記録はさておきである...）

大阪府 P.N.トイチー さん

この神戸マラソンを走るきっかけになったのが、震災でなくなった祖父です。

震災の後に生まれたので祖父のことは知らなくても、見守ってくれている気がして、初となるフルマラソンに挑戦しようと思うようになりました。

兵庫県 中山 大典 さん

マラソンを完走することで、被災地の皆様に勇気を届けたい。

今年の目標は2時間55分でフィニッシュすること。

自己ベストより33分縮めないと達成出来ない。

過酷ではあるけど、目標をもって前に進む姿勢、辛い中でも走りきる忍耐。

それを支える沿道の方々、給水のスタッフさん。

失礼ではありますが、被災地で例えるなら、復興を目指して日々頑張っている現地の方々。

少しでも力になりたくて集うボランティアの人。

そのような感じかな。

やることは違えど、置き換えは出来る。

エゴと言われればそれまでだけど...力強く諦めない姿を見せて、少しでも励みにしてもらえたら幸いです。

埼玉県 P.N. eiji さん

神戸学院大学を卒業して30年。

卒業後に大震災。

テレビに映っていた映像は、知っている景色とは一転。

その後、転勤族の私は東北の大震災に遭遇しました。

この年ちょうど、神戸マラソンがスタート。

懐かしの景色を遁走しながら、それぞれの地域の復興を願う。

一人一人に出来ることは限られている。

でも、復興を願う。

私は今回も走る。皆さんの笑顔と共に。

熊本県 赤松 祐 さん

今回初めて神戸マラソンに当選しました。

昨年熊本地震の折には、私は地域の避難所の運営に奔走し、地域の力で何とか 20 日間で避難所を閉所する事が出来ました。

しかし私個人としては、マンションは傾斜しコンクリートに穴が開き、大規模半壊。未だに家族と共に「みなし仮設住宅住まい」ですが、来年熊本城マラソンの頃には自宅に戻るメドが立ちました。

被災の際、私の避難所には、自衛隊よりも先に「兵庫医科大学 D-mat」の方々が応援部隊として到着していました。

私の長女が、東京の大学病院で看護師として CCU の現場にいるということもあり、とても嬉しかったです。

被災地だから分かるんだろうな、だから早いんだろうな...と感動した記憶があります。

熊本城マラソンには第 1 回から連続して出場しており、今回も傷ついた熊本城の復興義援金枠で 2 月の出場が決まりました。

7 月 31 日、「復興の絆プロジェクト FRIENDSHIP OF HIMAWARI」のパートナーシップ協定として、被災地同士としてのマラソン大会も連携となったとのこと。

大西熊本市長とも個人的な友人でもあり、今年度、神戸・熊本と両方の大会に出走して感謝の念で楽しんで走りたいです。

福岡県 P.N.さんちゃん さん

独身の頃、何度か神戸に行きました。

異国情緒を感じ、何処をとなく歩くのが好きでしたが、そんな独身天国に別れを告げる結納の日の翌日、阪神淡路大震災が起きました。

仲人さんは加古川から来てくれた方だったので、帰るのが結納の日の翌日であれば、自宅には戻れなかったことだと思います。

ニュースでは神戸の街を火災が拡がっていく様、高速道路が倒壊し横たわっている様映し出されていました。

そんな映像を見ながら、この街は元に戻るのだろうかと思いをしていました。

結婚して数年後、家族旅行で大阪に行く途中、一人新神戸で降り、思い出の街を歩いてみました。そこには「震災」を心と記憶にだけ残し、「復興」を感じさせず、何もなかったかのような街であった事に驚き、感動をしました。

一昨年は甥の結婚式でこの街を再び訪れ、今度はこの街をマラソンで走れることに、この街との何かしらの縁を感じ、復興に努力された方々に感謝をしながら走りたいと思います。

兵庫県 P.N.こうちゃん さん

単身赴任で 2010 年から 2012 年まで岩手県に住んでいたのですが、2011 年 3 月 10 日から 11 日まで釜石に出張していました。

昼に盛岡に戻った時に大震災が起きました。

わずか数時間の差で救われた命だと思い、東北の為に何か出来ないかと常に思っています。

今は神戸に帰ってきているので、東北には旅行に定期的に行っています。

また、仮設住宅にはいかなごの釘煮を送ったりしています。

神戸マラソンは毎年申し込んでいますが、なかなか当選せず、諦めかけていました。

しかし今回当選し、また被災地への思いを伝えるという事で、東北の皆さんの辛抱強さを胸にまずは東北の方々、また神戸等様々な災害に合った方の為に微力ながら一生懸命走りたいと思います。

フルはまだ完走した事が無いですが、この思いで絶対完走したいと思います！！

熊本県 北山 眞也 さん

阪神大震災を高校生で経験してから、約 20 年後に熊本地震を経験し、改めて震災が巻き起こす多くの悲しみや辛さを感じました。

今回の神戸マラソンは初参加で、実家のある神戸市西区から参加します。

今年 2 月の熊本城マラソンにも参加し、マラソンがもたらす大きな力を感じました。

ランナーに声援を送って下さる、皆さまの応援に力をいただき完走する事が出来ました。

今回は神戸マラソンランナーとして、被災地にエールを送りたいと考えています。

奈良県 P.N.こばちゃん さん

神戸には懐かしい思い出があります。

平成 3 年から、三宮に片道 2 時間近くかけて通勤をしていました。

震災時、幸いにも職場のビルは残りましたが閉鎖となり、勤め先も大阪となったため、あれから神戸には三回ほど訪れただけで遠いところとなっていました。

20 年以上が過ぎたのに、今でも当時の状況は風化することなく覚えています。

勤めていたビルも駐車場となり、形として当時のまま残っているものは少しかもしれないけれど、やはり懐かしい街です。

3 年ほど前から友達と始めたマラソンで、いつか神戸の街を走って見たいと思って、初めて友達とエントリーをしたところ私だけ当選。

目には見えないご縁を感じました。

ありがとう！神戸

宮城県 小野寺 憲一 さん

東日本大震災の被災地気仙沼から 5 回目の出場です。

東日本大震災から 7 年も経過すると被災地から離れた地では風化が進み、話題にもなっていないことでしょう。

しかし、被災地では未だ復興真ただ中。

仮設住宅暮らしをしている方もいままなお多数おります。

これまで継続的にご支援をいただいている神戸の皆様感謝を表しながら、今年も 42.195km を笑顔で走り抜けたと思います。

宮城県 P.N. ATSU さん

神戸マラソンは、初めての参加になります。

神戸のように東北も見事な復興を遂げられますよう。

祈りながら走りたいと思います。

大阪府 P.N.えのさん

1995 年 1 月 17 日 午前 5 時 46 分。

この時、私は三宮の勤務していた会社で被災。

会社で寝ていた社員は、合計 5 名。

幸いにも全員無事が確認。

慌てて外に出てみると、想像を絶する光景が...

ビルが傾いたり、倒れたり、火災が起きたりしている。

ポータライナーの高架が崩れ落ち、道をふさいでいる。

そごう百貨店の 1 階部分が潰れてしまっている。

傾いたビルの上に人がいて救出を求めている。

公園にはケガをした人が集まっている。

水道管が破裂し道路に水が噴き出している。

まさにこの世の地獄のような光景。

あの日から 22 年。

当時 32 歳だった私も 54 歳になり、当時住んでいた神戸市須磨区を離れ、現在は大阪市内に住んでいる。

マラソン歴 10 年目にして、思い出の神戸の街を初めて走る。

復興したであろう神戸を見ながら走りたい。

きっと、感慨深いマラソンになるだろう。

兵庫県 P.N.いっくん さん

大学 1 年生の冬に震災を経験しました。

当時は神戸市灘区に下宿していましたが、直後は街が経験したことのないパニックに襲われていました。

また、震災により、サークルのメンバー 1 名が残念ながら亡くなる悲しい体験もしました。

自衛隊をはじめ、多くのボランティアに助けられた印象が強いです。

現在では、本当に震災があったのかと思うほど見事に復興を遂げています。

これは被災した人をはじめ、自治体が前向きに走り続け、決してあきらめなかった結果だと思います。

神戸を離れて月日は経ちましたが、青春時代の多感な時期を神戸で過ごせたことに感謝の気持ちを込めて走りたいと思います。

あきらめず完走します。

大阪府 P.N.ノリさん さん

私は、大阪に住む 50 代の男性ですが未だに被災地へは行ったことがなく、せめてもと神戸を走ることで、被災地への応援の意味を込めて完走することを目指します。

東北、九州の皆様へ。

大阪府 鈴木 克彦 さん

阪神淡路大震災。

それは、私が 20 歳の時に人生で初めて目の当たりにした大災害だった。

当時私は大学生で、友人の何人かは兵庫県に住んでいた。

そんなこともあり、とても他人事のように思えず、友人の安否に気を揉み、マスコミで報道される様々な情報に心を痛めた。

あれから 22 年経った。

その間にも様々な自然災害が起こり、多くの方々が被災した。

その中には、好きなこと、やりたいことを諦めなければならない状況に追い込まれた人も居るだろう。

私は今、大好きなランニングができる。

とても幸福なことだと思っている。

昨年、初めて神戸マラソンを走り、大会の意義を肌で感じた。

私が神戸の街を走ることで、どれだけ神戸のためになれるかは分からない。

しかし、私はマラソンというスポーツは全ての被災地に何らかのメッセージを送ることができると思う。強く信じている。

今年もその想いを心に抱き、走ろう。

兵庫県 P.N.新生児科医 さん

私は震災の前年から新生児科医師として歩み始めました。

私の新生児科医としての歴史は、そのまま神戸の復興の歴史と重なります。

現在勤務する周産期医療センターも、オープン2か月後に阪神大震災に遭遇しました。

幸い大きな被害もなく、神戸・兵庫の赤ちゃんのために頑張ることができました。

昨年、須磨の地から神戸マラソンのフィニッシュ地点であるポートアイランドに移転。

震災から復興した神戸と同様に、次の時代に向かってさらなる発展をめざしています。

全国的に問題となっているように、周産期医療に携わる新生児科医師、産婦人科医師不足は、兵庫県も例外ではありません。

それでも、あの震災から見事に復興した神戸の街のように、苦しい状況の中でも、家族が笑顔で赤ちゃんを迎えられるときの喜びを糧に頑張っています。

2年ぶりに神戸マラソンを走ります。

今回はフィニッシュの先に我が病院があります。

入院している赤ちゃんたち、退院を待つ家族のみなさん、日夜診療に従事しているスタッフに、「一歩一歩進み続けることで必ず目標（フィニッシュ）にたどりつくことができる」ということを伝えたいと思います。

兵庫県 津村 正茂 さん

55歳の誕生日を迎えた1995年1月17日の早朝、阪神大地震に遭遇。

あの恐怖の中で家族の無事を確認し、雪の寒い道を歩き出勤しました。

途中で遭遇した、家屋の倒壊、火災、困惑した被災者の姿を、今でも鮮明に記憶しています。

各国からの支援・公的復興助成・ボランティア・義援金などの援助を受け、神戸の街は外見的には復興・再生しています。

私自身は、非常時の対応への認識が欠如し十分な活動ができず、忸怩たる思いがあり、今なお震災関連の資料を確認すると反省し心苦しく思っています。

いつの間にか私も77歳となり、高齢者の域に入りました。

当時、マラソン練習は仕事の関係もあり中断し、ようやく再開したのは半年後でした。

篠山マラソンもやっと完走できました。

偶々抽選に当り、56歳の時、四万十川100kmマラソンに出場しました。

練習を積み重ねた結果、制限時間内の14時間・最後尾でフィニッシュできました。

あの時の感動感激は、生涯忘れることはなく私の宝物です。

年齢のせいもあり、スピードは落ちる一方。

最後は、故郷鳥取の日本海マラソン大会で、後から3番目のフィニッシュでした。

マラソン大会は数多く出場していますが、途中棄権したことはなく、閉門制限時間内に完走できたことが私の誇りです。

この度、神戸マラソン出場が決定しました。

毎朝のジョギング練習に力が入ります。

練習コースは、いぶきの森、ハイテクパーク、旧伊川谷地区の農道などです。私が住む西神南地区には、震災後仮設住宅も数多くありました。

阪神・淡路大震災後も、日本各地で自然災害が数多く発生しています。

被災者の苦難を想像する時、いつもあの震災で経験した「絆」の大切さを思い出します。

人はそれぞれの立場で困難に直面します。

それでも目標を持ち、克復するしかありません。

私は、「歩かずに5時間30分前後での完走」を目指しています。

私の好きな詩「青春の一節にある・・・心の持ちかたを謳った80歳であろうと人は青春にして己む。」を胸に、毎朝のジョギングを楽しんでいます。

大阪府 藤本 成信 さん

60歳からマラソンに挑戦し、10回以上完走。

2011年3月の東北大震災から6年経ち、走ることで、被災した人にエールを、亡くなった人を悼む。

私の兄も福島で被災していますので、応援になればと思います。

また、妻もがんで天国に旅立ち、今年七回忌。妻とともに走っています。

止まらず、一步一步前に進めば、必ずフィニッシュ出来る。

そう思って、沿道の応援で力をいただきながら、今回も走ります。

熊本県 江藤 武 さん

昨年4月の熊本地震で地元が被災しました。

被害が大きかった地域の方々はもちろんですが、熊本県全体が被災直後は将来への不安とともに、目の前の現実を受け入れて「今」をどう乗り越えるかに必死でした。

そんな中、神戸をはじめとする全国の方々から、感謝しきれないほどの数多くの様々な御支援と温かい励ましの声援をいただきました。

人の温かい優しさに触れ、熊本は今精一杯、復興に向けて頑張っています。

神戸の方だからこそ、きっと今の熊本を分かっていただけだと信じています。

昨年の神戸マラソンも有難いことに走らせていただきました。

昨年は震災による御支援を頂いたことへの感謝の気持ちを少しでも伝えたいと思い、その気持ちを言葉にした鉢巻と襷を身に付けて走りました。

震災後の大変な時にマラソンを走るなんてと思いましたが、走ったことで分かったことでもあります。

神戸の街全体が熊本を心配してくれている、自分が走ることで少なからず、身近な人へ頑張る気持ちを伝えられるということです。

私一人の力は極々微力なものでしかありませんが、地元の被災地へ「熊本の復興を心から応援してくれている人がいるんだ」、「地元の被災地に少しでも頑張る勇気と笑顔を届けるんだ」という気持ちをこれからも忘れないでいこうと思います。

来年の熊本城マラソン2018では、有難いことに神戸と被災地連携を今後やっていくとの発表もありました。

大きな震災を経験したことをこの先起こりうるかもしれないことに、神戸と熊本がしっかりと手をつないで、経験を活かしていくことが何よりも大事だと思っています。

私自身、趣味のマラソンを通して、その「絆」を「つなぐ」きっかけや力になりたいと思います。

大阪府 P.N.くまよびのゆみこ さん

私と智子と彩は20年前の熊本の予備校で知り合いました。

高校も違う、志望校も違う私達でしたが、浪人して苦悩しながら苦楽を共に過ごしたその一年間は、今までの人生の中で充実したかけがえのない1年となりました。

毎日勉強ばかりしていたので、たまには息抜きをと、秋に3人で熊本城へ遠足に行ったのはいい思い出です。

大学や住んでいる県は違いましたが、3人で定期的に会っていました。

大学の話、就職の話、結婚の話、出産の話...

なかなか会えないけれど、久しぶりの会話は楽しくて、昔話にも花が咲きました。いつか3人で何かしたいね、子どもが大きくなったらねと話す中で、何か3人で成し遂げることがしたいとなり、いつか3人でフルマラソンに出場することが目標になりました。

2016年4月14日、16日に熊本地震が発生。

私達は就職結婚を機に、熊本、大分、大阪とバラバラに住んでいます。

大阪に住んでいる私は、実家も心配、友達も心配で気が気でなかった中、安否のメールを送りました。

実家も半壊となり、私が熊本に帰ることができたのは8ヶ月後でしたが、その時3人で会うことができました。

被災した熊本で助産師をしている智子から、どれだけ生活が大変だったか、熊本のことをたくさん聞きました。

私達の思い出の場所、熊本城にも行きました。

涙が出てきました。

でも、熊本の人たちは頑張っていました。

遠方で何もできない私ですが、家族や友達が頑張っている姿を応援せずにはいられません。

何かしたいと思いました。

こんな時だからこそ、3人で成し遂げるフルマラソンに出場し、しかも阪神・淡路大震災で大変だった街、神戸を走ろうと決めました。

全員が運良く当選できたのもご縁です。

私たちが友達になって、ちょうど20年目。

今では閉校となった予備校名「くまよび」と書いたナンバーカードを着けて、神戸の街を走り抜け、熊本の復興へエールを送りたいと思っています。

がまだすばい！熊本！

千葉県 P.N.川ジュさん

まだ震災の爪痕が残る神戸へ、2000年6月、新設発電所の建設現場に赴任しました。

引越しのバタバタで家内の体調がすぐれず、病院に行ったら『おめでた』とのこと。

結婚して6年が経過し、子供を授からず諦めかけていたときでした。

現場には毎日、北区鈴蘭台から自転車で通勤。

たまの休みは六甲山へサイクリング。

神戸の街を眺めながら、無事生まれることを祈っておりました。

2001年3月、啓蟄の日に誕生した息子も早や15歳。

千葉で元気に育っております。

昨年からは始めたジョギングで頑張っている親父の姿を見せるとともに、六甲山から眺めた神戸の街を自分の脚で走り、感謝したいと思います。
